

# 2014年日本語教育学実践研修の実施報告

日程： 2014年8月18日（月）～8月22日（金）  
会場： 北京日本学研究中心  
国際交流基金北京日本文化センター(8月20日)  
主催： 国際交流基金北京日本文化センター  
北京日本学研究中心  
参加者数： 15名



## 研修内容

2010年度から北京日本学研究中心と共催で「大学教師日本語教育学研修会」として、北京周辺の大学教師を対象に行っていた研修(通称木曜研修)を昨年からは全国の大学教師を対象にした研修にし、さらに形も夏の集中研修+冬の実践研究発表という形にしました。昨年の参加者からは内容の濃い研修として非常に高い評価を受けました。今年は、全国から15名の教師が参加しました。

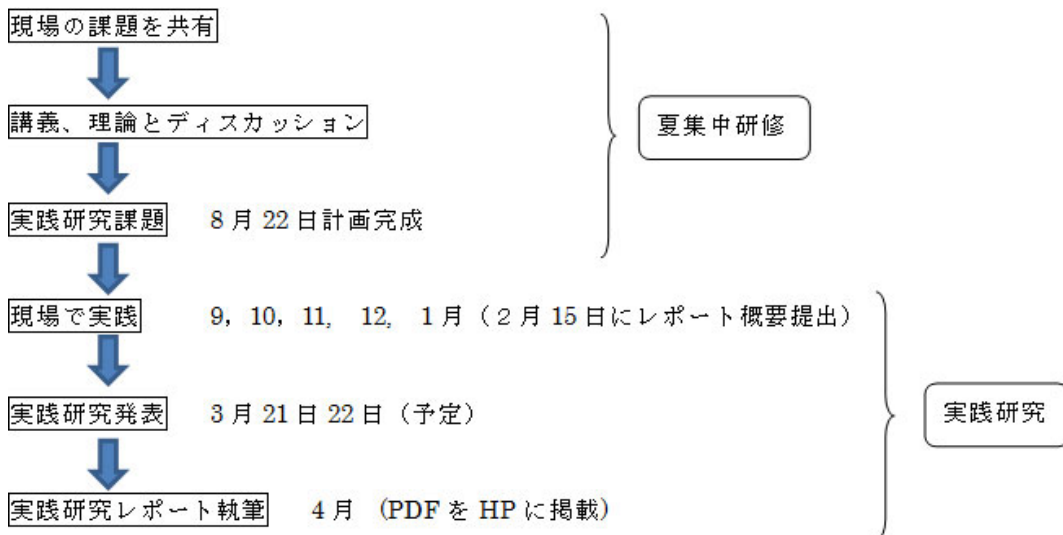
※2013年度日本語教育学実践研修についてはこちらをご覧ください。

<http://www.jpfbj.cn/down/2014/yanxiucezi.pdf>

コース目標は以下のとおりで、大規模研修では掘り下げられない「実践・内省重視型」の小規模研修として位置付けています。

- (1) 日本語教育を实践と研究の両面から捉え、自らの問題意識を確認する。
- (2) 実践の内省を通して、授業の更なる改善を目指す。
- (3) 研修ポートフォリオを作成し、各自の教育活動の中に本研修を位置づける。

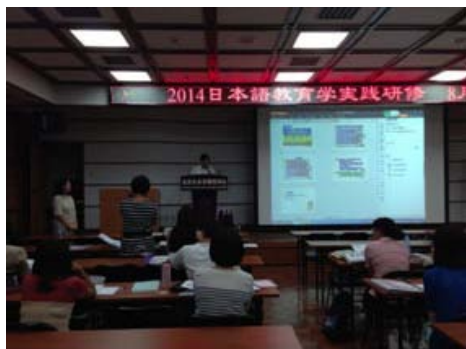
研修は以下の流れで実施されます。



各プログラムの詳細

## 講義

- ①新しい理念と教え方を考えるー教材改革例を通してー 曹大峰先生（北京日本学研究センター）
- ②教師の意識変容の学習を目指してー実践を語る、聴く 朱桂栄先生（北京日本学研究センター）
- ③第二言語習得理論 松浦とも子専門家（北京日本文化センター）
- ④聞くことを考える・オンラインリソース 鈴木今日子専門家（北京日本文化センター）
- ⑤評価を考える・JFスタンダード 柳坪幸佳専門家（北京日本文化センター）



曹大峰先生



朱桂栄先生



松浦とも子専門家



柳坪幸佳専門家

## 実践研究課題相談及び発表

上記講義のほかに、4回にわたって計7.5時間のクラス別課題相談と論文講読の時間を設けました。論文講読は、内容の読み取りというよりも、実践研究の方法とそのまとめ方を学ぶために実施しましたが、扱った論文は、「ピア学習による仮説検証型聴解授業の試みーカザフ民族大学を例にー」（ジョリナ・ダリヤグル 2008年日本語国際センター修士課程論文『日本語文化研究会論集2008年第4号』）、「ジグソー学習法を活用した大学院授業における学生の意識変容についてー活動間の有機的連携という観点からー」（朱桂栄・砂川有里子 『日本語教育145号』）の2点です。後者に関しては、朱桂栄氏自ら本研究の流れと方法について講義をしていただきました。

さらに課題発表前日には3時間の自由準備時間を設け、発表に4時間かけたので、合計14時間を実践研究の課題決定と発表に費やしたことになります。それ以外にも、休み時には日研センターの図書館を利用し、熱心に関連図書に目を通す姿が見られました。図書館が利用できたことはこの研修に厚みを持たせていると考えます。クラス別の課題相談ではグループ相談、全体での相談及び教師と1対1の相談を織り交ぜながら各クラス担任が進行した。授業後の時間も参加者同士で遅くまで議論が続いたようです。1日目には実践研究とは何かがわからないで参加していた者も、最終日にはまとまった計画を発表できるまでになりました。今年の実践研修のうち、夏の集中研修はこれで終了しました。ですが、本当の実践研修は、これからがスタートです。2月にどんな実践研究レポートが出てくるか、今からとても楽しみです。

## 実践研究課題例

- ・ピアラーニングを導入したプレゼンテーション授業のデザイン
- ・日本語非母語話者同士の学びを支える実践研究
- ・日本語基礎授業におけるシャドーイングの利用について



課題相談（１）



課題相談（２）



実践研究課題発表

### 参加者の声

2014日本語教育学実践研修アンケート結果より（一部抜粋）

- ・五日間の研修を通して、自分自身の成長が実感できました。漫然とした「課題」が先生方のご指導をいただいて、明確になるようになりました。本当にいい経験です。この研修で学んだ教育理念を活かして、これからの教育現場できっと役に立つと思われます。
- ・先生方々のご指導とご意見を教えていただいて、いい勉強になりました。これから、新しい教授法を授業に使ってみたいと思います。
- ・①担当教師からいろいろアドバイスをいただきました。②講座の専門家から理論から実践のやり方まで詳しく教えていただきました。③他の学校の教師とよく交流できて、友達になりました。
- ・今後の授業にぜひ今回の習った理論、教学の新方法を使いたいです。また新しく出版された研究の参考書をいただき、とても価値のある研修会だと認識しました。
- ・今回の研修は五日間しかありませんが、顔が見られる、声が聞こえて仲間と交流できた研修です。専門家と身近に接することができ、いろいろなアドバイスをいただいて、ほんとうに勉強になった気がしました。研修のテーマとこれからの実践についても、前より明確になりました。研修は終わりましたが、実践は新しいスタートです。これから先生方と相談を乗って、現場での研修に力を入れたいと思います。
- ・たいへん成長させられる研修でした。理論基礎の充実、また方法論の学び、得たもの、そしてわいてきた「実践研究」の意欲をいかして次のステップを踏みたいと思います。